

平成27年度 第3回講演会 記録

日 時	平成27年5月9日(土) 13:00~16:00		
会 場	此花会館 梅香殿 大ホール		
講 師	谷林業株式会社 取締役 谷 茂則 先生		
演 題	日本の人工林と林業再生		
備 考	参加者数 177名、	記録	中山 勝一

構造的な不況に悩む日本林業にあって、大学卒業後に家業の林業再生にチャレンジingに取り組み、若くして(30歳代)既に林業経営の第一人者である。田中先生からも日本林業のホープと紹介された。税理士だけでなく、森林インストラクター、森林情報士、森林評価士、林業技士などの資格を保有し、ヨーロッパで尊敬されている林業を統括するフォレスター(森林管理計画者)である。

『林業再生の取り組み』

日本は森林国であり、その森林資源は成熟期にあり資源の蓄積は収穫期に入り今後10年で年々増加する。それにも拘らず地形が急峻、インフラ整備が遅れ機械化も進んでいない。川上、川下の連携も悪く作業者の高齢化も進んでいる等の問題を抱えている。持続可能な森林経営へ向けて循環型林業を模索している。

その取り組み内容は人材の育成(素材生産技術、森林計画、造林技術、安全管理、新しい山守制度の構築と山守の育成)

情報整備(森林調査、森林境界測量、データベース化、GIS構築)

経営の集約化、長期計画、路網・作業道開設、収穫作業の機械化
回復施業(間伐など)育林施業、地域社会や障害者福祉などとの交流
(森サロ、里山チャイムの鳴る森、森のようちえん)などであり、

「最も美しい森林は、最も収穫多き森林である」との信念の下、循環型経営に努力している。

今後は東京オリンピックに向けたFSC認証、中間土場の構築
苗畑、王寺林業プロジェクトであり、シニア層の参加を呼びかけている。林業史上最高のビジネスモデルであった吉野林業を現代的な視点で再構築したいとの夢がある。

「所感」

林業は人材に始まり、人材に終わるとして、オールマイティな人材、しっかり考えて行動できる人材の育成、と人財を重視している点に未来を感じさせる。また棚卸資産の適切な把握のため情報の整備を進めている点も林業を現代経営の視点で見直しており評価できる。日本林業の未来に向けて頼もしい

メッセージであった。都会の森と言うキーワードも目新しく、森林と人を繋げる場づくりを忘れていない。自然観察会参加者は実地で谷林業の取り組みに感銘を受ける事と思う。



熱弁をふるう谷取締役



谷さんは日本林業のホープです



熱心に聴講する受講生